

❖大阪薬科大学報

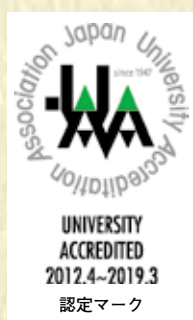
75

2017年(平成29年)6月30日発行



C O N T E N T S

学長挨拶	学長 政田 幹夫…… 3
特集①	薬学部及び大学院のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて …… 4～6 教務部・教務課
大阪薬科大学の研究は今	薬物の腎排泄システムの解明に向けて 薬剤学研究室 教授 永井 純也…… 7
特集②	基礎薬学教育研究センターを利用しましょう!! 基礎薬学教育研究センター…… 8、9
進路について	平成28年度 進路・就職状況報告 ……10 薬剤師国家試験について 国試対策委員長 岩永 一範……11
OB・OGの活躍	研究と人の未来をつなぐ「架け橋」に ……12 地方独立行政法人神戸市民病院 神戸市立医療センター中央市民病院 治験・臨床試験管理センター 臨床研究コーディネーター 玉木 理衣
キャンパスニュース①	・平成28年度学生表彰 ・五月祭開催 ・学友会活動 ……13 ・新入生ガイダンス ・新入生交流・導入教育 ・国際交流基金助成事業 ……14 ・English Café ・学生相談室だより ……15
教育・研究活動	・研究助成金採択一覧 ・平成29年度科研費採択者一覧 ・平成28年度研究振興基金助成の概要 ……16 ・平成28年度学位授与 ・論文博士号授与 ・がん専門薬剤師養成コース第1期生修了 ……17
五大学連携	五大学連携活動状況 五大学連携事業担当 井上 晴嗣……18
三大学医工薬連携	三大学医工薬連携科学教育研究機構の活動状況（その12） 准教授（特任） 銭田 晃一……18
教育・研究活動	留学報告 循環病態治療学研究室 講師 加藤 隆児……19 ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事業報告 ……19
就任の挨拶	……20、21 生体分析学研究室 教授 天満 敬 臨床実践薬学教育研究室 教授（特任） 井上 薫 臨床実践薬学教育研究室 教授（特任） 岡田 博 人間文化学グループ 准教授 城下 賢一 言語文化学グループ 講師 田邊 久美子 薬剤学研究室 助教 竹林 裕美子 分子構造化学研究室 助手 加藤 巧馬 図書・情報課 高橋 友裕 学生課 堀江 雅彦
人事・慶弔	……22、23
キャンパスニュース②	・平成28年度公開授業研究会、FD講演会 ・SD研修会 ……24
キャンパスニュース③	・三野芳紀教授 退職記念講義および退職記念パーティー ……25 ・平成28年度学位記授与式 ・平成29年度入学式 ……25 ・平成29年度白衣授与式 ・平成28年度実務実習伝達・報告会 ……26
地域連携	・けやきの森市民大学 ……26 ・市民講座 実施報告および今後の開催案内 ……27 ・第5回大阪薬科大学学術講演会 in 東京 ・中学生職場体験報告 ……28 ・鶴保庸介内閣府特命担当大臣が本学を訪問 ……28 ・平成29年度 大阪薬科大学生涯学習開講プログラム ……29 ・平成29年度 大阪薬科大学サテライトセミナー ……29 ・メディアへの掲載・放送等（平成28年11月～平成29年3月） ……30
平成29年度前期行事予定	……31
薬用植物の紹介	ベニバナ（キク科） 薬用植物園長 教授 谷口 雅彦 薬用植物園 技術職員 忍穂 陽介……巻末
編集後記	広報委員長 教授 辻坊 裕……巻末



本学は公益財団法人大学基準協会による2011(平成23)年度認証評価の結果、2012(平成24)年3月9日付で同協会の定める大学基準に適合しているとの認定を受けました。

認定期間
2012(平成24)年4月1日より
2019(平成31)年3月31日

募集します!

★次号学報の表紙を飾っていただける学生
★大学グッズ作成にあたり、簡単なイラストを描いて
いただける学生

我こそは!と思われる学生は、図書・情報課までご連絡ください。

メールアドレス: kouhou@gly.oups.ac.jp

学んだ知識を
一生涯自分のものとするため、
一夜漬けの試験勉強は止め、

学長 政田幹夫

授業中・その日のうちに
自分の知識として
理解する！！！！



本 学に学長として赴任以来2年4か月が過ぎました。現3年次生から始まった薬学6年制教育新コアカリキュラムの医療薬学並びに臨床薬学両領域の作成に携わり、新コアカリキュラム開始の学年の入学と共に本学に赴任しました。現3年次生以降の学生諸君には1年次生時の「薬学入門」において薬学者・薬剤師の備えるべき資質等を90分間講義してきました。薬学はあくまでも人の命に係わる医薬品・食品・環境衛生等に関する事柄を扱う学問であり、将来はその職域に就く学問領域であり、一生涯「高度な知識と技能の修得」「高い生命倫理観」を維持続けるための講義したつもりです。しかるに、新コアカリキュラムの学年諸君の留年の多さには驚愕しています。聞くところによると、前・後期試験に一日に二科目の試験があれば一つの科目は“捨てる”という行為を行っているとか。将来、卒業時に受ける国家試験のことを考え、地道に余裕を持って毎日コツコツと学習し卒業時の国家試験のためにも、就職後の知識として役立てるためにも、頭の中に永遠に残るよう、二科目とも受かる勉強法に変えてください。一夜漬けの勉強は、定期試験が終わればその場で忘れてしまい、卒業試験、国家試験時に苦労することになります。今日（授業中）、教えられたことは今日（授業中）理解し知識として蓄える習慣をつけてください。

新5年次生の白衣授与式においても、新6年次生の実務実習報告会においても学生諸君に苦言を呈しましたが、将来、人の命を預かる職業に就くヒトとして、何事においても規律を守り真摯に物事に取り組んでください。

歴史と伝統ある、名門大阪薬科大学を一層発展、充実したものにしましょう！！！！

いま一つ報告をしておきます。我が国における薬学教育機関の質を保证するために、薬学教育評価機構が実施する6年制薬学教育プログラムについての専門分野別評価事業を平成28年度に受審し、評価機構が定める「薬学教育評価 評価基準」に「適合している」と認定されました。「長所」「助言」「改善すべき点」の提言を受け、今後の本学における6年制薬学教育プログラムの向上に向け対応します。教職員・学生が一丸となってより素晴らしい大阪薬科大学を創り上げていきましょう。



薬学部及び大学院のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて

標記について学生や受験生等が理解しやすい内容に改正しました。なお、改正にあたり、ディプロマ・ポリシーについては、薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）に定められた「薬剤師として求められる基本的な資質（10の資質）」に対応した内容とし、カリキュラム・ポリシーはこのディプロマ・ポリシーとの一体性・整合性が確認できるように項目立てた内容にしました。

また、薬学部薬科学科及び大学院のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについても同様に学生や受験生等が理解しやすい内容に改正しました。

参考

薬剤師として求められる基本的な資質（10の資質）

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。

6年卒業時に必要とされている資質は以下のとおりである。

①薬剤師としての心構え

医療の担い手として、豊かな人間性と、生命の尊厳について深い知識をもち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を有する。

②患者・生活者本位の視点

患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。

③コミュニケーション能力

患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。

④チーム医療への参画

医療機関や地域における医療チームに積極的に参画



し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。

⑤基礎的な科学力

生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。

⑥薬物療法における実践的能力

薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。

⑦地域の保健・医療における実践的能力

地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。

⑧研究能力

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。

⑨自己研鑽

薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

⑩教育能力

次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

大阪薬科大学薬学部薬学科

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

薬学科において、必要な所定の単位を修得し、以下の資質と能力を有した学生に対して卒業を認定し、「学士（薬学）」を授与します。

- ①医療人として相応しい倫理観と社会性を有していること。
- ②国際化に対応できる基礎的な語学力を有していること。
- ③薬の専門家として必要な幅広い科学的知識・技能・態度を有していること。
- ④薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度を有していること。
- ⑤チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度を有していること。
- ⑥薬の専門家に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること。

ゼンテーション能力を有していること。

- ⑦地域における必要な情報を適切に発信し、人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有していること。
- ⑧薬学・医療の進歩に対応するために自己研鑽し、次なる人材を育成する意欲と態度を有していること。
- ⑨薬学・医療の進歩と改善に役立てる研究を遂行する意欲と科学的根拠・研究に基づく問題発見・解決能力を有していること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

薬学科では、薬に対する幅広い知識を持つとともに、医療人に相応しい、高い実践能力と研究力、倫理観と使命感を併せ持つ、社会に貢献できる質の高い薬剤師の養成を目的とし、以下のカリキュラムを編成しています。

①基礎教育・ヒューマンズ教育

薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と医療人に相応しい

倫理観と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けます。

②語学教育

国際化に対応できる語学力を養います。

③薬学専門教育

「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基本とした、薬物に関する幅広い科学的知識を修得します。

④医療薬学教育

薬の専門家として患者や医療チームから信頼される薬剤師を養成します。また、薬剤師として必要な知識・技能及び態度を修得するために、病院と薬局において参加型実務実習を行い、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力及び生涯にわたる自己研鑽力と次世代を担う人材を育成する意欲と態度の必要性を体得します。さらに、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を養います。

⑤実習科目

講義で得た知識に基づいて、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力を醸成するために、4年次から研究室に所属し卒業研究を行います。

大阪薬科大学薬学部薬科学科

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

薬科学科において、必要な所定の単位を修得し、以下の資質と能力を有した学生に対して卒業を認定し、「学士(薬科学)」を授与します。

- ①医療に関わるために必要な倫理性と社会性を身に付けていること。
- ②国際化に対応できる基礎的な語学力を有していること。
- ③創薬研究などに必要な基礎的知識と技能・態度を有していること。
- ④科学的な課題を探究し、解決する能力を有していること。
- ⑤研究者に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

薬科学科では、健康、生命に関する有機的・総合的な知識を持つとともに、応用力、研究力を身に付けた薬学を基盤とする多様な分野で活躍できる人材の養成を目的とし、以下のカリキュラムを編成しています。

①基礎教育・ヒューマニズム教育

薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と、医療の担い手に相応しい倫理性と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けます。

②語学教育

国際化に対応できる語学力を養います。

③薬学専門教育

薬学の基礎知識及び薬の物性と構造、反応などの知識について体系的に修得します。

④実習科目

講義で得た知識に基づき、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力を醸成するために研究室に所属し卒業研究を行います。

大阪薬科大学大学院薬学研究科 薬学専攻博士課程

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

本大学院薬学研究科薬学専攻博士課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、博士課程の教育・研究の理念に沿った教育・研究指導を受け、博士論文の審査、試験に合格し、博士課程を修了することです。授与する学位は「博士(薬学)」とし、審査にあたり、

- ①薬学研究に貢献できる十分な能力を有し、高度かつ広範で最新の知識、並びに高度かつ優れた技能・態度・倫理観・責任感等を身に付けていること。
 - ②優れた臨床的洞察力・観察力・解析力を持ち、臨床現場に精通していること。
- を学位授与の基準とします。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

本大学院薬学研究科薬学専攻博士課程において、臨床・医療薬学領域における広い視野と専門性の高い研究能力の涵養を行い、高度な知識と技能をもって国民の健康の維持増進、公衆衛生の向上並びに疾病の予防、治療等に資する優れた人材を養成するための教育研究を基本とします。そのため、

- ①予防薬学、創薬薬理・薬物治療薬学と薬物機能解析薬学、臨床・医療の実践による病態解析薬学及び医療評価薬学、さらにこれらを有機的に連携させたトランスレーショナルリサーチと臨床からのフィードバックを取り入れた、総合的な臨床・医療薬学教育を行います。
- ②科目を通じて、専門性の高い研究力、研究成果や情報の正確な伝達能力・説明能力を養成するとともに、臨床・医療の分野で求められる崇高な倫理観、使命感を涵養します。

大阪薬科大学大学院薬学研究科 薬学専攻博士課程 (がん専門薬剤師養成コース)

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

本大学院薬学研究科薬学専攻博士課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、博士課程の教育・研究の理念

に沿った教育・研究指導を受け、博士論文の審査、試験に合格し、博士課程を修了することです。授与する学位は「博士（薬学）」とし、審査にあたり、

- ①薬学研究に貢献できる十分な能力を有し、高度かつ広範で最新の知識、並びに高度かつ優れた技能・態度・倫理観・責任感等を身に付けていること。
 - ②優れた臨床的洞察力・観察力・解析力を持ち、臨床現場に精通していること。
 - ③がん専門薬剤師に求められる医療における実践を体験し、臨床研究に従事して症例報告や症例検討を行うことができること。
- を学位授与の基準とします。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本大学院薬学研究科薬学専攻博士課程がんプロセス（がん専門薬剤師養成コース）において、臨床・医療薬学領域における広い視野と高い専門性、研究能力の涵養を行い、高度な知識と技能をもって国民の健康の維持増進、並びに疾病の予防・治療等に資する優れた人材を養成する教育研究を基本としつつ、がん医療における高い専門性と研究力を備えた、がん専門薬剤師を養成します。そのため、

- ①予防薬学、創薬薬理・薬物治療薬学と薬物機能解析薬学、臨床・医療の実践による病態解析薬学及び医療評価薬学、さらにこれらを有機的に連携させたトランスレーショナルリサーチと臨床からのフィードバックを取り入れた、総合的な臨床・医療薬学教育を行います。
- ②科目を通じて、専門性の高い研究力、研究成果や情報の正確な伝達能力・説明能力を養成するとともに、臨床・医療の分野で求められる崇高な倫理観、使命感を涵養します。
- ③がんに対する基礎と応用の高い研究能力を身に付け、がん医療の高度化・均てん化に貢献することのできる知識と技能、態度を備えた人材を育て、がん専門薬剤師を養成します。

大阪薬科大学大学院薬学研究科 薬科学専攻博士前期課程

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、修士課程の教育・研究の理念に沿った教育・研究指導を受け、修士論文の審査、試験に合格し、修士課程を修了することです。授与する学位は「修士（薬科学）」とし、審査にあたり、

- 広く高度で知的な素養と幅広く深い学問的知識を身に付け、柔軟な応用力を備えた研究能力、倫理観、さらには国際的視野を持つこと。
- を学位授与の基準とします。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

薬科学専攻博士前期課程（修士課程）において、学生は3つの研究領域（分子構造・機能解析学領域、創薬化学領域、生命・環境科学領域）のいずれかに所属し、主として主指導教員により研究・教育指導を受けることとしており、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施しています。

- ①基礎薬学の知識の上に立ち、さらに深い専門的学識を体得し、専門分野における応用力を向上・充実させます。
- ②講義科目は選択科目とし、学生の自主性や専門性に配慮します。
- ③問題解決能力や研究の国際交流上必要なコミュニケーション能力を養成するため、演習（特別演習）及び特別研究を配置します。

大阪薬科大学大学院薬学研究科 薬科学専攻博士後期課程

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本大学院薬学研究科薬科学専攻博士後期課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、博士課程の教育・研究の理念に沿った教育・研究指導を受け、博士論文の審査、試験に合格し、博士課程を修了することです。授与する学位は「博士（薬科学）」とし、審査にあたり、

- 薬学の根幹をなし、生命科学の応用として展開される創薬科学や関連する研究領域において、新しい視点と独自の発想から課題を的確に把握し、それを解決できる高度な専門的知識と技能、倫理観をもち、さらに指導力とリーダーシップを発揮して薬科学領域の研究に貢献できる能力を身に付けていること。
- を学位授与の基準とします。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

薬科学専攻博士後期課程（博士課程）において、学生は2つの研究領域（分子構造・機能解析学領域、創薬化学領域）のいずれかに所属します。研究・教育指導は、主指導教員を中心に行うが、これに加えて当該研究領域の教員並びに「大学院薬学研究科薬学専攻博士課程」の医療系教員とも連携し、学生に対して複眼的な視点からの研究・教育指導が行える体制としており、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施しています。

- ①専門分野に関連した他の研究領域の知識と技能を取込み、オリジナリティーの高い独自の専門分野を開発・発展させることのできる柔軟性と応用力を備えた資質を涵養することを目的とした講義科目を配置します。
- ②問題解決能力や課題探究能力を養成するため、特別演習、特別研究演習、及び特別研究を配置します。

薬物の腎排泄システムの解明に向けて

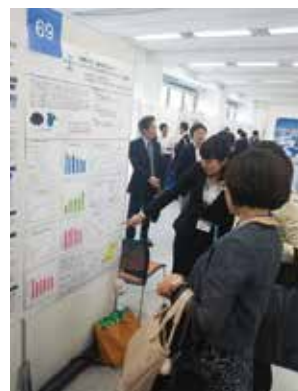
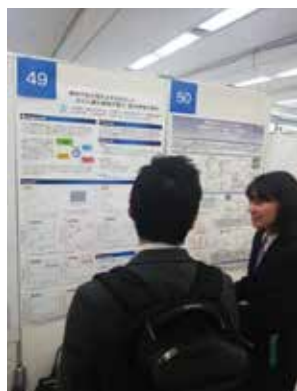
薬剤学研究室 教授 永井 純也

体の中に入った薬物は、その後、どのような運命をたどるのでしょうか。素早く体の中から消失していくものもあれば、何日にもわたって体の中に留まるようなものもあり、その運命は薬物の数だけあるとも言えます。また、同じ薬物でも患者さんごとに体の中の動きは大なり小なり違ってきます。薬物が体内から消失する現象は、大きく「代謝」と「排泄」という過程に分けられます。「代謝」は体の中にある酵素によって薬物が異なる物質（代謝物）に変化することであり、主に肝臓で起きる現象です。一方、「排泄」は主として腎臓が生成する尿とともに薬物が体外へと出されていく現象であり、特に「腎排泄」と呼ばれます。「代謝」や「排泄」は薬物が体内から消えていく「出口」の過程ですから、この「出口」の状態が変化すると、体の中で薬物が留まる時間も変わることになり、薬物の血中濃度ひいては薬効や副作用の発現に影響してきます。したがって、「代謝」や「排泄」で表される薬物の動きに関わる分子メカニズムを明らかにすることは、より安全で有効な薬物投与設計を行う上で役立ちます。

学部生の皆さんは薬物動態学（生物薬剤学）の講義において「腎排泄」に関する内容を学びますが、その際には必ず「*p*-アミノ馬尿酸（PAH）」という薬物名に出会います。臨床現場においてPAHは腎血流量を測定するための腎機能検査薬として使用されています。PAHがこうした検査薬として使用される理由は、腎臓においてとても特徴のある動態特性を示すことにあります。すなわち、PAHは腎臓を1回通過するだけで、ほぼすべてのPAHが尿中に排泄されます（ただし、PAHがある血漿中濃度以下という条件付きです）。ヒトの正常な腎臓では1分間あたりに約1.2 Lもの血液が流れ込むのですが、その血液に含まれるPAHのほぼすべては尿中へと移動するのです。こうした優れたPAH除去システムには、腎臓の近位尿細管上皮細胞に発現している薬物トランスポーターOAT1やOAT3が重要な役割を果たしています。PAHはOAT1/3を介して尿細管分泌を非常に受けやすいために、最も腎から尿中へと排泄されやすい物質の一つとなっています。OAT1/3はPAH以外の薬物などの腎排泄にも関与していることから、生体から異物を除去する役割を担っていると考えられています。一方、PAHは比較的に高用量を投与しても重篤な副作用が出ることはほとんどなく、生体にとってそれほど有害な物質ではありません。それでは、PAHをきわめて効率よく体外へと排泄するシステムを私たちはなぜ有しているのでしょうか。PAHが最も効率よく腎排泄される物質の一つであるのは、単なる偶然

なのでしょうか。仮にそうだとすると、PAHの腎排泄に関わるシステムは、異物排除のためだけではない、生理学的に重要な別の役割を果たしている可能性もあるのかも知れません。現象として明らかになっていることでも、その生理学的意義についてはよくわからないことが多いのは、薬物動態の研究分野においても同様です。

現在、薬剤学研究室では、腎疾患などの病態時において薬物トランスポーターの発現や機能がどのように変動し、薬物の全身あるいは組織細胞動態にどのような変化が起きるのかといったテーマをはじめとして、薬物動態研究に基礎から応用面にわたって幅広く取り組んでいます。薬物の腎排泄に関わるトランスポーターとしては、OAT1/3以外にもOCT2、P-糖タンパク質、MRP2/4、MATE1/2-K、BCRPなどが挙げられます。現在ではこうしたトランスポーターは医薬品添付文書にも記載されることから、これらの情報は研究者のみの知識ではなく、薬剤師も基礎知識として理解しておくことが求められています。研究面のみならず、薬物動態に対する興味や疑問などがあれば、気軽に薬剤学研究室を訪ねてみてください。



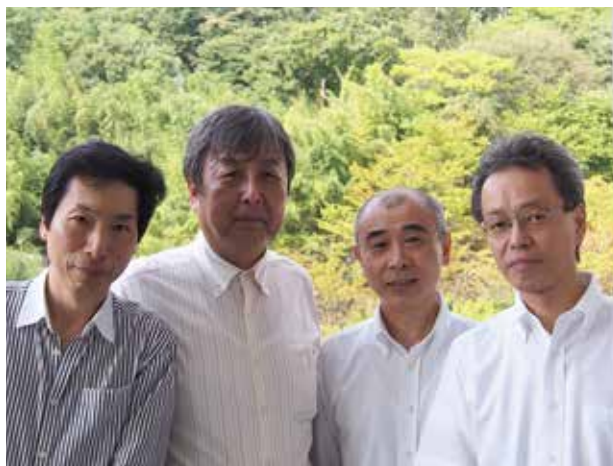
基礎薬学教育研究センターを利用しましょう!!

基礎薬学教育研究センター

平成28年4月にスタートした基礎薬学教育研究センターでは、アクティブラーニングやITを取り入れた効果の高い双方向性教育手法の開発や導入、その評価や検証といった教育に関する研究を目指しています。

また、学生の卒業率や国試合格率向上のために、様々な調査や解析を行っていく予定です。さらに、各学生さんのデータを集約させた“学生カルテ”を利用した教職員によるサポートも検討しています。それらと合わせて、学生の日々の学習を支援する目的で、各教員の専門領域においては担当科目以外の質問にも積極的に応じています。

一方、各教員はそれぞれのテーマを持って実験を伴う研究も行っています。なお、これまでの教員個人の研究としては以下のような研究を行ってきましたので、教員の専門バックグラウンドとして参考にしてください。



基礎薬学教育研究センター

- ・授業についていけない
- ・講義内容が理解できない
- ・勉強の仕方がわからない
- ・講義と違う先生の説明も聞いてみたい

基礎薬学教育研究センター(B棟4階)では、薬学基礎知識の定着を応援します。勉強でつまづきことがあれば訪ねてください。

大桃善朗・井上晴嗣・尾崎恵一・佐藤卓史

各教員からの研究メッセージ

大桃善朗
これまでの研究テーマ
「分子イメージングでがんの早期画像診断を目指す」

CT-SPECT画像

井上晴嗣
これまでの研究テーマ
「ロイシンリッチ α_2 -グリオブリン(LRG)の機能解明」

「毒ヘビ由来ホスホリパーゼA₂阻害タンパク質の構造と機能」

大桃善朗、井上晴嗣、尾崎恵一、佐藤卓史

センターを来訪した学生の学習支援

基礎薬学教育研究センターが実質的に始動して以降（平成28年7月～平成29年1月）に質問のためにセンターを訪ねてきた学生は、把握できている範囲で、延べ103名。複数回訪れた学生の重複を除いた実数で75名でした。1回当たりの質問時間は平均38分間でした。来訪者の数は2・3年次生が多かったですが、これは、センター教員が担当する講義や実習の開講年次の影響が大きいものと考えられます。また、2・3年次生、特に3年次生の来訪は単回のみが多かったのに対して、1年次生は来訪してきた学生数は少ないものの、多くが複数回訪れていました。4年次生は3名がそれぞれ1回、6年次生は1名が1回訪れただけでした。5年次生の来訪はありませんでした。

月別では、定期試験直前の7月、12月の来訪者数が多かったです。同じ試験前でも、7月に比べ12月が1/4以下の人数なのは試験日程との関係と思われます。また、それ以外の期間の来訪者は大半が1年次生でした。多くの学生が、自身の学力に不安があって質問に訪れましたが、中には十分な学力を持つ学生が、より深い理解を求めてやってこることもありました。

以上のように、日頃から勉強するといった学習意欲は、学年の進行に伴い低下していくことがここからも見て取れ、できるだけ低学年のうちに学習習慣を身につけてもらうことが極めて重要だと思われました。今後も教員そろって力を合わせ、低学年からの学習支援に積極的に取り組んでいきたいと思います。

基礎薬学教育研究センター
利用者の声

2年次生 菅野 真那

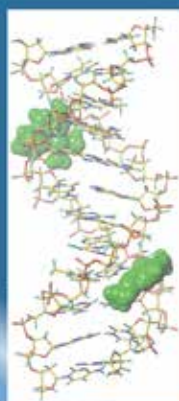
私は、授業でわからなかったところを聞くためにこのセンターを利用しました。私が質問にこのセンターを訪れるときはいつでも先生方が親切に質問に答えてくださり、時には2時間以上にわたって私が理解するまで丁寧に教えてくださったこともあります。教科担当の先生に質問したいところがあっても、担当の先生がいらっしゃらなかったり、その先生の研究室に少し入りづらかったりすることもあるかと思います。

しかし、このセンターには全員で4名の先生方がいらっしゃり、どの先生も優しく丁寧に教えてくださるのですぐに解決することができます。研究室の雰囲気も明るくオープンなので、入りづらいということも全くありません。授業でわからなかったところをそのままにして受けた前期定期試験より、少しでもわからないところがあればすぐにこのセンターの先生方に質問に伺って理解して受けた後期定期試験の成績の方が、ぐんと伸びました。



佐藤卓史

これまでの研究テーマ

「シスプラチン耐性がん
有効な新規白金錯体の開発」

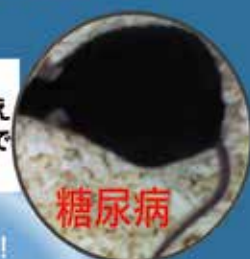
尾崎恵一

これまでの研究テーマ

「シグナル伝達病の薬物治療
のための基礎研究」

2つの疾患を
同じシグナル伝達病ととらえ
同じシグナル伝達阻害薬投与で
治療効果！！

生物学の基礎をしっかり学び
薬に応用して実験で確かめてみましょう！



◆平成28年度 進路・就職状況報告

平成28年度学部卒業生の進路・就職状況について報告します。

本学の学部学生（6年制）の就職・進学率は96.9%（就職を希望しない者4名を除く）と堅調に推移しています。その内訳は、薬業関連企業に20.1%（内勤職[研究・開発等] 11.5%、MR 7.6%、その他 1.0%）、病院27.3%、病院研修生2.8%、薬局40.8%、公務員4.8%（大阪府、大阪府、兵庫県、京都市等）、進学1.0%となっています。

キャリアサポート部・課ではみなさん一人ひとりが主体的に進路を選択し実現できるよう支援しています。

昨年12月には薬学出身者が活躍する多様な職種の理解を深めることを目的に、薬業関連企業（メーカー・医薬品卸・CRO）、病院、薬局、官公庁をお招きしたキ

ャリア教育セミナーを実施し、採用情報の提供については学内合同セミナーを3月（薬業関連企業編）と4月（薬局・病院編）に実施しました。同セミナーには合わせて約650名の学生の参加を得ました。

また今後は、グループワークによる参加型の主体性講座、自身の強み、やりたいこと等を考える自己分析講座、面接本番を想定した面接実践トレーニング等、理解・習得から実践までを体系的に学べるよう講座を予定しています。就職活動学年以外の4年次生や低学年次生も参加可能な講座も設けています。キャリアサポート課からの講座実施案内を確認し、学業に差し障りのない範囲で参加しましょう。



主体性講座

学内合同セミナー



薬剤師国家試験について

国試対策委員長 岩永 一範

第102回薬剤師国家試験が平成29年2月25、26日に行われ、全国で新卒8,291名、既卒4,515名、その他437名の受験者が挑みました。思考力が問われる問題や、臨床現場での実践力に関連する問題がこれまで以上に増加している傾向にあり、第101回に比べると難易度がやや上昇しました。単なる暗記では対処できない問題や、実務実習で得た知識をしっかりと定着させておくことが必要な問題が出題されていることを1～4年次の学生も心に留めておいて下さい。

私立大学新卒者の平均合格率は84.33%で、昨年の85.72%からわずかに低下しました。本学の新卒者の合格率は、85.86%、全国私立大学56校中26位でした。昨年の28位から僅かに順位は上げたものの、直近3年間で24位→28位→26位と昨年の本欄で懸念していた「本学の国家試験合格率の低迷傾向」が定着しつつあります。大学間で学生数、各学年の留年者数、卒業延期生数が異なるため、単なる「合格率」で比較することに異論があることは重々承知していますが、新卒者の合格率90%以上を達成することは、所謂「老舗大学」の1つである本学にとっては必ずクリアしなければならない目標です。

第102回国家試験結果を詳細に検討すると、留年経験者の合格率の低さが際立っていることが見えてきます。今回の新卒者数290名のうち、留年未経験者の合格率が92%を超えているのに対して、1回留年経験者では80%弱、2回留年経験者では20%以下と留年経験の有無で合格率に大きな開きがあります。模擬試験結果の追跡調査でも、留年経験者が早い時期に合格を諦めてしまっている傾向が認められます。「留年」と一口に言っても、「勉学をおろそかにしてしまった」、「勉強方法が本人に合っていなかった」、「体調不良」等様々な理由がありますので「留年＝国家試験不合格」という単純な関係が成り立つ訳ではありませんが、留年未経験者と比較して、より早い時期から国家試験対策に取り組み、合格に一步でも近づく努力が必要だと思われます。本年は、大学としても留年経験者の指導については特に強化していく予定です。

6年次生に対して前後期で行われる薬学総合演習は、総まとめとして6年間の学習内容を振り返るものです。莫大な量の学習内容を含んでいるため、時間はどうしても不足します。したがって、本演習の講義は1～5年次に学習した全範囲の内容について再度講義を行うものではなく、国家試験への出題頻度を考慮した上でポイントのみを解説する講義であることを理解した上で、自己学習のチェックの場として活用して下さい。予習もせず、これまでと同様の心構えで講義に臨んでいると、秋には「きちんと講義に出て勉強しているのに成績が伸びない」という事態に陥ります。講義に頼るのではなく、勉強は自分でして下さい。また、勉強をせずして友達同士で、「まだ始めなくても間に合う」とお互いに言い合うような根拠のない自信に基づいた「試験勉強からの逃避」は、友達同士まとめて不合格者を出すことに繋がりますのでやめて下さい。本学教員は、合格を目指して日々努力する学生に対してのみ最大限のバックアップをしていきます。

6年次生学生のご父兄の皆様方におかれましては、ご子息、ご息女が卒業、国家試験合格へ向けて、どの程度実力をつけているのかご心配のことと存じます。薬学総合演習では年に7回の模擬試験を行い、毎回結果に基づく診断カルテを配布し、自己学習の改善に用いるよう指導しています。本年度の新しい試みとしまして、模擬試験結果を年2回に分けて、ご父兄に郵送することと致しました。

学生達はしっかりと日々努力をしていることと思いますが、模試結果に基づきご父兄からも応援の言葉を掛けて頂くことで、モチベーションが高まり、より良い結果に結びつくことを期待しております。

上述しましたように、本年度は何としても新卒合格率90%以上を確保することを目標に、国家試験対策委員を始め全学をあげて支援をしていく所存ですが、あくまでも「勉強するのは国家試験を受験する学生の皆さんである」ことをしっかりと認識し、友達同士励ましあい、切磋琢磨しながらお互いを高めて努力し、一緒に楽しい春を迎えましょう。

第102回薬剤師国家試験結果

区分	受験者(名)	合格者(名)	合格率(%)	私立全国平均(%)	私立全国順位
6年制 新卒	男	100	84	84.00	84.33 26位 / 56校
	女	190	165	86.84	
	計	290	249	85.86	
6年制 既卒	男	49	28	69.39	50.72 12位 / 56校
	女		6		
	計	49	34		
総合		340	284	83.53	70.64 18位 / 56校

平成29年2/25,26施行



地方独立行政法人神戸市民病院
神戸市立医療センター中央市民病院
治験・臨床試験管理センター

臨床研究コーディネーター 玉木 理衣さん

研究と人の未来をつなぐ「架け橋」に

臨床研究コーディネーター Clinical Research Coordinator (以下、CRC) という職種をご存知でしょうか。CRC とは臨床研究を適切かつ円滑に遂行するための専門職です。仕事内容について、少し説明をさせていただきます。

臨床研究の中でも、臨床試験とは人を対象により良い治療法、検査法を開発するために倫理的なルールに従って新しい治療や診断を行い、その有効性や安全性を科学的に評価する試験を指します。医薬品・医療機器の製造販売承認を目的として行われる臨床試験を「治験」と呼び、承認申請に関係しない治療法に関するものを「臨床試験」と呼びます。CRCの多くは看護師、薬剤師などの医療資格を有し、対象となる患者さんのケアや支援、責任医師や院内部門の調整、試験依頼者などの対応、データマネジメントを行っています。例えば、患者さんが臨床試験への参加を検討される際には、医師からの説明の後、詳細について補足説明します。CRCは患者さんが納得のいく決断ができるように、試験への参加について一緒に悩み考えサポートしていきます。医師に聞きにくいことや心配なことをご相談いただき、周囲の看護師や薬剤師にも相談できる環境作りをします。薬剤師として薬の知識を活かしながら、安全性に関わる臨床検査値や有害事象評価を行うための知識、患者さんの精神的なケアやコミュニケーションスキルも求められます。

私は大阪薬科大学を卒業後、大学院修士課程へ進学しました。新薬開発に携わる仕事に興味があり、患者さんの近くで新薬開発をサポートできる職業を探したところ、CRCという職業に出会いました。CRC未経験でしたが、がん専門病院に就職し、CRCとしての一步を踏み出しました。現場に出てみると、想像以上にがんに関する基礎的な知識や患者ケアが重要であることを実感しました。近年、がん治療分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の開発が活発に行われています。画期的な新薬の

登場はあるものの、進行・再発がんの治療成績は十分とは言えず、今後もより良い治療法開発のために臨床試験は必要不可欠です。がんを専門とするCRCとして、より高度な知識を持って患者さんの支援をしたいと強く思うようになり、平成25年に新設された薬学研究科薬学専攻博士課程がん専門薬剤師養成コースに進学しました。社会人学生であり、大学での授業や研究活動以外は臨床現場でがん治療に関わる実務実習を行いました。臨床でのクリニカルエクシジョンを見つけ出して臨床研究を行い、研究室での基礎研究につなげるという「架け橋」の役割ができる貴重な経験が出来ました。研究者としての視点・考え方を持つということは、臨床現場でも非常に重要です。ただ仕事をしながら、大学院生として研究活動を行うという「二足の草鞋」は想像以上に慌ただしいもので、無事学位授与して頂いたのも職場や研究室の方々のご協力、そして家族の応援のおかげと心から感謝しています。

薬剤師は、薬の適正使用を推進し、医師の選択した治療法を支える薬のプロフェッショナルです。CRCも薬を扱いますが、目の前の患者さんの安全性と治験薬の評価を行い、そして未来の患者さんのために新薬を世の中に出す「未来への薬の架け橋」の役割を担っています。がん臨床試験に関わるCRCには専門性の高い知識や技術、調整能力が求められます。試験に参加してくださる患者さんの想いを胸に、日々奮闘しながらこれからもCRCとして邁進する所存です。

TAMAKI Rie 玉木 理衣

大阪薬科大学薬学部薬学科卒業、同大学院薬学研究科薬学専攻博士課程修了。平成25年度から同課程に設置されたがん専門薬剤師養成コースの第1期生として平成29年3月に政田研究科長より学位記が授与されました。

学位記授与式についてはP17に掲載

◆平成28年度学生表彰を行いました

平成29年3月11日（土）、学位記授与式後に平成28年度学生表彰を行いました。大阪薬科大学学生表彰規程に基づき、学術研究活動、課外活動等において功績があった学生や学生団体に対し、春沢学生部長から、各表彰者の業績及び選考の経緯等が説明され、政田学長から表彰状の授与並びに記念品が手渡されました。



規程第2条第1号（学術研究活動において、特に顕著な業績を挙げた学生又は学生団体）

学年（当時）	氏名	所属・団体	業績
博士課程4年次生	徳留 健太郎	薬品作用解析学研究室	国際精神神経薬理学会 2016 優秀発表賞
博士課程3年次生	國澤 直史	薬品作用解析学研究室	国際精神神経薬理学会 2016 優秀発表賞
博士課程2年次生	Higor Alves Iha	薬品作用解析学研究室	国際精神神経薬理学会 2016 優秀発表賞
6年次生	福田 衣純	生体防御学研究室	第66回日本薬学会近畿支部大会優秀ポスター賞

規程第2条第2号（課外活動において特に優秀な成績を修めた学生又は学生団体）該当者

所属・団体	業績
コーラス部	定期演奏会での発表

◆五月祭(新入生歓迎会)が開催されました

恒例の五月祭（学友会主催）が平成29年5月12日（金）に体育館で開催されました。

第1部では、軽音楽部、フォークソング部、コーラス部、アンサンブルサークルによる演奏・発表や、ダンス部によるステージ、アドバイザー単位でのクイズ大会などがあり、第2部では全学年でのビンゴ大会が行われました。カメラや旅行券など、豪華な景品が用意され、大いに盛り上がりました。学生間はもちろん、教職員との交流を深める良い機会となりました。



◆平成29年度 学友会執行委員会

執行委員長	木村遥華
副執行委員長	松田紋音
総務局長	久保愛奈
会計部長	赤澤京香
書記	臼杵克真
厚生局長	萱原翔太
文化局長	中村美月
体育局長	松村歩美
広報渉外局長	高尾弥生

◆平成29年度 大薬祭実行委員会

大薬祭実行委員長	真名子啓太
大薬祭副実行委員長	岡田悠佑
総務部長	久保愛奈
イベント部長	植野紗也加
リサイクル部長	早川愛理
渉外部長	照喜名真由子
渉内部長	楠木ほのか
装飾部長	塩見実咲

◆大薬祭「colorful」が開催されます

本年度の大薬祭は、「colorful」をテーマに、平成29年10月27日（金）～10月29日（日）の日程で開催されます。昨年はリサイクルイベントがFM802「ROCK KIDS 802 学園祭SPECIAL LIVE！祭！祭！祭！」として行われ、「BIGMAMA」「Brian the Sun」が出演しました。

また、毎年恒例の「ダンスバトル」「フリーマーケット」「薔薇祭」など大いに盛り上がりました。今年もすでに大薬祭実行委員が準備を始めています。楽しい企画にご期待ください。

真名子 大薬祭実行委員長からのメッセージです。

今年度の大薬祭は、メインテーマを「colorful」に決定致しました。colorfulには「多彩な」という意味があります。一人一人の個性を大切にしようと思い、このテーマに決定しました。第52回大薬祭ではそれぞれの魅力を引き出し、皆が主役になれるような大薬祭にしたいと思います。皆様のご参加心よりお待ちしております。

◆新入生ガイダンス

新入生の年度初め行事には新入生学力テスト、校医講演やアドバイザー面談など様々な行事があります。平成29年4月5日（水）に開催された「新入生ガイダンス」では、学生部を始め、教務部、キャリアサポート部、図書館からの説明や諸注意がありました。その他、学生生活全般を支援する学生部では学生相談室についての講演、悪徳商法関係講演、カルト関係講演、防犯関係講演を開催しました。



◆新入生交流・導入教育について

新入生が大学の学びにスムーズに移れることを目的として、毎年6月下旬までの期間にアドバイザー単位で「新入生交流・導入教育」を実施しています。企画は各アドバイザーに任せられています。今年は大学からの補助金も増額され、充実した様々なプランが立てられ実行されました。

主な企画内容は「会食」が多く、その他に「美術館見学」「京都観光」「野球観戦」など、楽しく食事をしたり、施設を見学したりしながら、これからの大学生活や学習方法などについてアドバイザーからアドバイスを受け、新入生同士の交流が図られました。

◆国際交流基金助成事業について

本学では、創立百周年を記念して設けられた国際交流基金が整備されています。学術交流協定大学からの留学生受入や、外国人研究者等の招聘だけでなく、学部学生及び大学院学生の国際学会での発表、学部学生の語学留学や海外研修などの費用を対象に助成を行っております。

昨年度の実績としては、国際学会の発表や短期語学留学、海外研修や海外学術交流協定大学への交換留学など、延べ37件の助成を行いました（学生からの申請分）。

国際交流基金による助成事業のうち、「海外研修旅行・海外語学留学」について、募集を下記のとおり行います。助成を希望する学生は事前に所定の申請用紙（本学ホームページよりダウンロード可能）により学生課に申請を行ってください。国際交流委員会での審査を経て採択されれば助成金が支給されます。

「海外で語学留学したい！」「海外の医療現場を見てみたい！」等、海外留学を検討している学生は是非、本制度を利用してください。

なお、過去に助成を受けた学生の報告書が本学ホームページ上に掲載されていますので、参考にしてください。

【本学ホームページ】

HOME > 教育・研究 > 国際交流

<http://www.oups.ac.jp/gakujutsu/kokusaikoryu/index.html>

受付期間	前期	平成29年 5月 8日(月)～平成29年8月31日(木)
	後期	平成29年11月13日(月)～平成30年3月 9日(金)
海外研修旅行・海外語学留学	対象経費総額に5割を乗じた額から10万円を限度に助成	
国際学会発表	対象経費総額に8割を乗じた額から15万円を限度に助成	
海外学術交流協定大学等への留学	対象経費総額に5割を乗じた額から20万円を限度に助成	

English Café (外国語学習支援室)

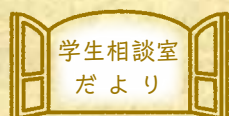
准教授 スミス 朋子

平成29年4月より、B棟1階にEnglish Café (外国語学習支援室) がOpenしました！実習がない火～木曜日の午後に利用できます。図書館にも英語関連の書籍がありますが、English Caféにも英語の多読リーダーズや原書を用意しました。また、TOEIC用の問題集、英語関連の雑誌もありますから、気軽に利用してください。今後は、DVDなども用意して外国語学習に活用してもらおうと準備しています。

また、英語学習のための支援活動も行っています。今学期からはE-ChatをEnglish Caféで水曜日の午後に開催しました。E-Chatは、ネイティブスピーカーの講師と楽しく英会話の練習をする時間です。予約制で毎回6名の定員ですが、今学期は希望者が増え、ウェイティングリストを作るほどになりました。来学期も開催します

から、興味のある方は9月初旬に学生課に問い合わせてください。さらに、English Caféでは、自主的な英語学習活動も支援しています。4年次生は時間割の都合でE-Chatに参加できなかったため、金曜日の午後に自主的に集まって、英語学習を行いました。学生だけでも色々な活動を楽しんでいました。昨年度も活動した英語多読のE-readingも継続して活動していますが、場所をEnglish Caféで行うようになりました。English Caféは飲食が可能のため、忙しいお昼休みに30分程度集まってE-readingのような活動をすることも可能になりました。

学生の皆さん、もし何か語学学習でこんな活動がやりたいという希望があれば、是非、英語担当教員(楠瀬・スミス・田邊)に声をかけてください。お待ちしております。



わかっちゃいるけどやめられない？

学生相談室相談員 若林 暁子

突然ですが、アディクション(嗜癖)について知っていますか？ 悪い習慣にのめりこんでしまい「わかっちゃいるけどやめられない」セルフコントロールを失った状態をいいます。①「もの」依存：物質を体内に摂取することによって起きる変化、快感への依存(アルコール、ニコチン、ドラッグなど)、②「行為」依存：ある行為の始まりから終わりまでのプロセスに伴う快感への依存(ギャンブル、買い物、インターネットなど)、③「人間関係」依存：異性との不安定な関係を繰り返すなど、人との関係への依存(共依存)が代表的です。

趣味や習慣との明確な区別は難しいですが、適切な範囲を明らかに超えている、本人や周囲が苦痛を感じている、日常生活に支障が生じているとなると問題です。近年ではインターネット依存がクローズアップされており、不適切な使用によって人間の「こころ」と「からだ」に大きな影響をもたらすことが明らかになってきています。

アディクションの問題は身近に潜んでおり誰でも陥る危険性がありますが、抜け出すことはなかなか大変です。生活上のストレスや精神的苦痛を一時的に緩和する手段として生じている場合もあり、回復の過程では現状の分析や代替手段(対処法)の獲得などが必要となってきます。もしこの問題でお困りの方がいれば、学生相談室もサポート資源の一つとしてぜひご利用下さい。お待ちしております。

本学では、学生相談室を設け、週に3回、カウンセラー(臨床心理士)が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。保護者からの相談も可能です。



若林暁子相談員



小田佳子相談員



西田裕子相談員

受付時間
毎週火曜日 12:00～16:00(担当/若林)
毎週木曜日 12:00～16:00(担当/小田)
毎週金曜日 14:00～18:00(担当/西田)

問合せ
☎ 072-690-1077 (直通)
✉ counsel@gly.oups.ac.jp

[場所] A棟1階



◆研究助成金採択一覧

研究助成機関	採択者	採択テーマ
公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団 平成28年度研究助成	門田 和紀 講師 (製剤設計学研究室)	にがりの主成分イオンがゼリー剤のテクスチャーおよび苦味に与える影響
公益財団法人前田記念工学振興財団 平成28年度研究助成	東 剛志 助教 (薬品分析化学研究室)	医療機関の排水を対象にした新規水処理技術の開発に関する研究
公益信託 医用薬物研究奨励富岳基金 平成28年度研究助成	尾崎 恵一 教授 (基礎薬学教育研究センター)	ERK-MAP キナーゼ経路によるヒストン脱アセチル化酵素(HDAC)阻害剤感受性制御機構の解明
公益財団法人てんかん治療研究振興財団 平成29年度研究助成	大野 行弘 教授 (薬品作用解析学研究室)	新規てんかん原性因子 G α inhibitory interacting protein (GINP) の機能解析研究
公益財団法人喫煙科学研究財団 平成29年度研究助成	大野 行弘 教授 (薬品作用解析学研究室)	錐体外路系運動障害の発現調節におけるニコチン受容体の役割
公益財団法人日本食品化学研究振興財団 平成29年度研究助成金	内山 博雅 助教 (製剤設計学研究室)	酵素処理イソクエルシトリンを用いた高付加価値機能性食品の開発
日本私立学校振興・共済事業団 平成29年度学術研究振興資金	細畑 圭子 准教授 (臨床薬学教育研究センター)	水腎症の早期検出を指向した基礎および臨床検討

※所属・職位は、採択時のものです

◆平成29年度科研費採択者一覧

(単位：千円)

	氏名	職名	応募種目	研究課題名	直接経費	間接経費
新規	大野 行弘	教授	基盤研究(C)	シナプス分泌障害に起因する精神疾患の病態解明	1,700	510
	永井 純也	教授	基盤研究(C)	糸球体から漏出したアルブミンに結合する脂肪酸及び薬物の腎尿細管移行特性と影響解析	1,400	420
	中村 任	教授	基盤研究(C)	プラチナ系抗癌剤の副作用発現とバイオメタル変動との関連解析	1,200	360
	スミス 朋子	准教授	基盤研究(C)	薬学系英語教育における授業モデルの構築：専門語彙・読解教材の開発と効果の検証	800	240
	平田 雅彦	講師	基盤研究(C)	ポスト FDG を目指した新規放射性薬剤の開発～ p38 α 活性診断薬剤の開発～	1,200	360
	藤井 俊裕	助教	若手研究(B)	新規の活性化機序のリン脂質スクランブラーゼの同定と機能解析	900	270
継続	小池 敦資	助教	若手研究(B)	TLR シグナルを介した新奇薬物相互作用によるマクロファージ細胞死の分子機構の解明	1,000	300
	天野 富美夫	教授	基盤研究(C)	サルモネラの VBNC 状態への移行と増殖可能状態への復帰及び病原性発現機構の解析	900	270
	浦田 秀仁	教授	基盤研究(C)	金属錯体型塩基対の形成を構造基盤とする DNA 複製反応の制御	800	240
	福永 理己郎	教授	基盤研究(C)	mTOR・M n k プロテインキナーゼ系による翻訳調節を介した細胞増殖制御機構の解明	1,000	300
	尾崎 恵一	教授	基盤研究(C)	がん細胞の HDAC 阻害剤感受性を規定する分子機構の解明	1,100	330
	藤森 功	教授	基盤研究(C)	エイコサノイドによる肥満制御機構の解明とその制御機構に基づく新規治療法の探索	1,100	330
	恩田 光子	教授	基盤研究(C)	健康行動理論に基づく風邪症状患者面談アルゴリズムの作成と有効性の検証	500	150
	天満 敬	教授	基盤研究(C)	ニューロン・グリア・血管連関に基づく多発性硬化症の多変量 PET 解析基盤構築研究	1,100	330
	和田 俊一	准教授	基盤研究(C)	時空間制御機能を兼ね備えた Aib 含有ヘリックスペプチドの核酸医薬への応用	900	270
	大喜多 守	准教授	基盤研究(C)	エンドセリンとエストロゲンによる虚血性臓器障害の制御と性差	1,300	390
	宮崎 誠	准教授	基盤研究(C)	交替勤務従事者のための糖尿病薬物治療の開発：光で変動し続ける治療効果のモデリング	1,100	330
	門田 和紀	講師	若手研究(B)	呼吸器疾患の個別化医療を実現可能にする吸入粉末剤のカスタムメイドデザイン	1,300	390
	内田 まやこ	講師	研究活動 スタート支援	多発性骨髄腫患者におけるレナリドミドの副作用発現に及ぼす影響因子の解明	1,100	330
	東 剛志	助教	若手研究(B)	病院排水中に残留する医薬品成分を対象にした新規水処理技術の開発と有効性評価	1,300	390
	清水 佐紀	助教	若手研究(B)	本態性振戦の病態メカニズム解析と新たな治療薬ターゲットの解明	800	240

◆平成28年度研究振興基金助成の概要

大阪薬科大学研究振興基金の平成28年度助成対象者が下記のとおり決定しました。この助成は、本学若手専任教員（助手以上で教授を除く50歳未満の者）が本学で行った研究成果の中で、特に優れた研究論文を発表した教員を顕彰し、更なる研究活動の発展を支援することを目的としています。

受賞者（3名）

	氏 名	論 題	雑誌名
1	門田 和紀 (製剤設計学研究室 講師)	Hybridization of polyvinylpyrrolidone to a binary composite of curcumin/ α -glucosyl stevia improves both oral absorption and photochemical stability of curcumin.	Food Chemistry
2	東 剛志 (薬品分析化学研究室 助教)	Detection of Pharmaceuticals and Phytochemicals together with their Metabolites in Hospital Effluents in Japan, and their Contribution to Sewage Treatment Plant Influent.	Science of the Total Environment
3	小池 敦資 (生体防御学研究室 助手)	Simultaneous addition of shikonin and its derivatives with lipopolysaccharide induces rapid macrophage death.	Biological and Pharmaceutical Bulletin

※所属研究室、職位は受賞当時で記載しています

◆平成28年度学位授与

[博士]

論文博士

博士（薬科学）論博薬科第74号 田中 智
乳がん治療における新規なターゲット分子に関する基礎的研究

（平成29年3月11日）

課程博士

博士（薬学）博薬第30号 徳留 健太郎
シナプス小胞蛋白質SV2Aのてんかん原性調節機能に関する薬理研究

（平成29年3月11日）

博士（薬学）博薬第31号 玉木 理衣

ヒトスキルス胃がんの治療確立に向けた基盤的研究

（平成29年3月30日）

[修士]

修士（薬科学）

男子3名 女子2名 計5名

（平成29年3月11日）

[学士]

学士（薬学）

男子100名 女子191名 計291名

（平成29年3月10日）

学士（薬科学）

男子1名 女子1名 計2名

（平成29年3月10日）

◆論文博士学位記授与式を挙行了しました

平成29年3月11日（土）の平成28年度学位記授与式に先立ち、同日朝に論文博士学位記授与式を執り行い、田中智氏に政田学長から博士（薬科学）の学位記が授与されました。

論文題目

乳がん治療における新規なターゲット分子に関する基礎的研究



◆大学院薬学研究科薬学専攻博士課程 がん専門薬剤師養成コース第1期生が修了しました

平成29年3月30日（木）に大学院薬学研究科薬学専攻博士課程の学位記授与式を執り行い、平成25年度から同課程に設置されたがん専門薬剤師養成コースの第1期生となる玉木理衣氏に政田研究科長から博士（薬学）の学位記が授与されました。

論文題目

Human scirrhou gastric cancer; chemotherapeutic trials from clinical and basic approaches（ヒトスキルス胃がんの治療確立に向けた基盤的研究）



五大学連携活動状況

五大学連携事業担当 井上 晴嗣

関西の特色ある5つの私立・国立大学（武庫川女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、大阪電気通信大学、関西大学、大阪薬科大学）が連携して行う5大学連携事業が、文部科学省の平成20年度戦略的大学連携支援事業に選定され以来、現在では、藍野大学、森ノ宮医療大

学からの聴講生も受け入れ、広域大学連携事業として講義や実習などを開講しています。異なる専門領域をもつ多くの学生がこの連携事業を通して貴重な経験を得ています。



理系女性人材育成プログラム「理系女性のキャリアパス設計論」



三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況（その12）

准教授（特任） 銭田 晃一

本機構は高槻市にキャンパスを有する関西大学、大阪医科大学と本学が連携し、文部科学省平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択され発足し、現在も高槻市内の小学生から三大学の学生、地域の方々を対象に活動を続けています。

昨年度、「小学校へ出張講義」は前期9校、後期11校で実施、「自由研究コンテスト2016」は小・中学生合わせて360作品の応募があり、一次審査を通過した30作品について11月20日（日）に第二次審査会（発表会）を行い、優秀発表に対して最優秀賞、優秀賞、大学賞などを授与しました。また、平成29年1月21日には第12回三大学医工薬連環科学シンポジウムを「地域医療充実のための医工薬連環科学の今後を語る」のテーマで開催し、医学・工学・薬学・行政の立場からそれぞれ講演いただきました。

三大学連携双方向講義の昨年度前期実施分は本学学報74号にて紹介しましたが、後期は大阪医科大学から「生命誌」、関西大学から「福祉工学概論」と「機能性食品」を受信し、それぞれ30名、62名、47名の学生が履修しました。本学からは「生薬学」「機能形態学1」を配信するとともに関西大学の履修生に対する実習も実施しました。

2年次生前期に配置され本学のシラバスにも掲載されている「医工薬連環科学」は三大学の教員によるオムニバス形式で月曜5限に現在、講義が行われているところです。今年度の資料集は教科書化に向けて大幅に改訂を行いました。本科目は薬学教育モデル・コアカリキュラムにとらわれない本学独自の科目ですので是非履修いただきたいと考えています。

留学報告

循環病態治療学研究室 講師 加藤 隆児

私は平成28年2月から平成29年3月まで、カナダのトロント大学薬学部Jack Uetrecht教授の研究室で留学する機会を頂きました。研究室メンバーは博士後期課程の学生が中心で、動物や細胞実験を中心に各自のテーマを研究していました。私は細胞を用いて薬物性肝障害発症機序に関する研究を行いました。研究室では、教授やメンバーと研究をはじめ様々なことについて多くのディスカッションをしました。言葉の壁や文化の違いに戸惑うこともありましたが、様々な考え方があることを知ることができました。



また、研究に対する考え方は万国共通であることを実感できたことは貴重な経験でした。本留学を通して経験したことや学んだことを、今後の本学における教育、研究に生かして行きたいと思っています。今回貴重な機会を与えて頂き、学長をはじめ本学の教職員の皆様、また海外研修制度によりご支援頂きました日本臨床薬理学会に心より御礼申し上げます。

◆文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業報告

平成24年度から平成28年度までの5年間、本学はがんプロ養成プロジェクト（文部科学省採択事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」）に参加しておりました。この事業は、大阪大学を拠点校とする関西7大学大学院（大阪大学・医学・薬学、兵庫県立大学・看護学、和歌山県立医科大学・医学、奈良県立医科大学・医学、京都府立医科大学・医学、神戸薬科大学・薬学、大阪薬科大学・薬学）が連携して推進するというもので、その目的は、がん医療に関わる専門家の養成と地域医療における連携を通じたがん医療の水準の高度化・均てん化にありました。平成25年度からは、大学院薬学研究科薬学専攻課程にがん専門薬剤師養成コースを開講し、同年度に2名、平成27年度に1名の大学院生が入学し、研究を開始するとともに、がん専門薬剤師を目指して臨

床実習・演習を行い、平成28年度には第1期の修了生を輩出しました。

本事業の最終年度となった平成28年度は、活動の一環として下記のとおり公開シンポジウムを開催し、いずれも充実した内容となりました。

また、5年間の事業の集大成としての活動報告書の刊行も計画しています。

本学では、今後がん専門薬剤師の育成教育はもちろんのこと、地域医療における薬剤師連携や一般市民に対する講演会等についても継続して力を注いで行く所存です。

この活動を通して我が国のがん医療の推進に貢献できれば幸いです。

第11回公開シンポジウム

日 時	平成28年11月27日（日）
場 所	大阪薬科大学 D302 講義室
テーマ	「認知症を抱えてのがん治療を考える～在宅医療における薬剤師の役割と期待～」

第12回公開シンポジウム

日 時	平成29年2月19日（日）
場 所	大阪薬科大学 D302 講義室
テーマ	「がんの遺伝情報を用いた予知と患者の容態からの判断による、最適な薬物療法に向けて」

就 任 の 挨 拶

生体分析学研究室 教授 **天満 敬**



平成29年4月1日付で生体分析学研究室に着任しました天満と申します。

私は、京都大学大学院薬学研究科博士後期課程の途中に京都大学大学院薬学研究科助手に採用され、その後約10年間を助手・助教として薬学研究・薬学教育に従事しました。この間、フィンランドのトゥルク大学PETセンターに3か月だけ留学しました。続いて、国立循環器病研究センター研究所で分子イメージング研究に従事した後、本学に赴任しました。「百聞は一見にしかず」を旨に分かりやすく印象的な教育・研究に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

臨床実践薬学教育研究室 教授(特任) **井上 薫**



この度、臨床実践薬学教育研究室に赴任しました井上薫です。本学の高見の里学舎卒業後、大阪市民病院機構の病院を中心に臨床現場で患者さんに接し、大阪市立総合医療センターでは臨床研究(治療)などにも関わってきました。

今後は、主に4年次生の臨床導入学習や5年次生の実務実習で学生と関わりますが、今までの経験を活かせたいと思っています。

私がゴールデンウィークに大学に来た際、正門前で中学生くらいの人がお母さんに写真を撮ってもらっている場面に出くわしました。

私は、大阪薬科大学が伝統を守り続け、更に発展していく事が、このような中学生の憧れとなり、将来、多くの優秀な薬剤師を生み出せると思っています。

精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

臨床実践薬学教育研究室 教授(特任) **岡田 博**



平成29年4月1日付、大阪薬科大学臨床実践薬学教育研究室教授(特任)に就任しました岡田 博です。よろしくお願いいたします。

私は、昭和55年3月に大阪薬科大学を卒業、その後、国立病院機構を含め多くの施設で病院薬剤師として勤務してまいりました。その時以来、医療現場でのチームワークやコミュニケーションの必要性、重要性を十分感じてきました。これは医療現場だけでなく一般社会でも必要なことで、このことを少しでも多くの学生たちに理解していただきたいと思っています。

趣味は、現在映画鑑賞、読書(特にジャンルはなし)、散歩に近いウォーキングです。週末には1~2時間ほど自宅近くの万博公園近くをあてもなく歩き、喫茶店で一杯のコーヒーを楽しみながら読書しています。結構、ストレス発散になります。

最後に、1日も早く大学に慣れるようにと思っています。よろしくお願いいたします。

人間文化学グループ 准教授 **城下 賢一**



医療は高度な専門知に基づくものですが、同時に、政治・経済・法と密接な関係があります。例えば、現在の薬剤師のあり方、あるいは医療のあり方全体が、国民皆保険体制の下で成立しているということが示唆するのは、政府の動向次第で、薬剤師のあり方も大きく変化するということです。よりよい医療人になるためにも、医療を取り巻く社会全体に関する知識と感性が有益であり、そのための学習のお手伝いできれば幸いです。

言語文化学グループ 講師 **田邊 久美子**



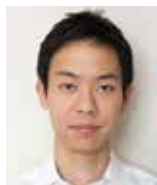
この度、関西外国語大学より本学の言語文化学グループに着任いたしました。専門はイギリス文学・文化で、主に19世紀ヴィクトリア朝について研究しています。ヴィクトリア朝は医療や薬学の面でも大きな進歩が見られた時代です。今後はそういった研究や医学英語のテキスト作成にも取り組みたいです。本学の英語教育に貢献できるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

薬剤学研究室 助教 **竹林 裕美子**

平成29年4月1日付で薬剤学研究室の助教として着任いたしました。大阪薬科大学の皆様には謹んでご挨拶を申し上げます。

私は徳島大学薬学部を卒業後、京都大学薬学部大学院薬学研究科（医療薬剤学研究室）に進学しました。大学院博士課程を修了後、日本学術振興会特別研究員として勤務しました。その後、京都大学医学部附属病院薬剤部に入職し、外来・院内調剤や薬剤管理指導業務に従事しました。出産・育児のため、一旦研究・医療現場から離れておりましたが、ご縁があって昨年度4月から大阪薬科大学薬剤学研究室の臨時教育補助教員として勤務しました。

私は徳島大学薬学部時代、硬式テニス部に所属し、大阪薬科大学との定期戦で松原キャンパスと現・高槻キャンパスを訪れた経験があり、テニスコートを見ると、とても懐かしく感じています。これまで取り組んできた研究や病院薬剤師の経験を、学生の皆様にフィードバックできるよう努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

分子構造化学研究室 助手 **加藤 巧馬**

この度、分子構造化学研究室に助手として着任いたしました加藤と申します。私は長崎大学薬学部で6年間、同大学院医歯薬学総合研究科で3年間、勉強し研究を行ってきました。薬学部が6年制に移行してからの3期生として、現行の薬剤師国家試験対策の大変さは身を持って体験しているので、学生のみなさんの勉強にあたっての苦労や悩み等に関しては、比較的近い立場でお話しできるかなと思います。どうぞよろしくお願い致します。

図書・情報課 **高橋 友裕**

この度、平成29年2月1日付で、図書・情報課に配属となりました高橋友裕と申します。

前職では、電気通信事業者に在籍しており、学校法人のネットワークやシステム構築の支援をさせて頂いておりました。そこで培った知識やスキルを活かし、教職員ならびに学生の皆様にとってより良いIT環境を築くことで、本学に寄与して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

学生課 **堀江 雅彦**

この度、平成29年6月1日付で法人合併に伴い人事交流として大阪医科大学・学務課より大阪薬科大学の学生課に配属となりました堀江雅彦と申します。

医学部・看護学部と薬学部が共に発展していくための架け橋となれるように努めてまいりますので、何卒よろしくお願い致します。

■人事

名誉教授（平成 29 年 4 月 1 日付） 三野 芳紀

退職（平成 28 年 12 月 31 日付）

助手（嘱託職員） 川島 浩之

退職（平成 29 年 2 月 28 日付）

助手（嘱託職員） 高野 美菜

学生課課長補佐 山之内 有右

退職（平成 29 年 3 月 31 日付）

教授 島本 史夫

准教授 吉岡 興一

図書・情報課長 高橋 正好

採用（平成 29 年 2 月 1 日付）

事務職員 高橋 友裕

採用（平成 29 年 4 月 1 日付）

教授 天満 敬

教授（特任） 井上 薫

教授（特任） 岡田 博

准教授 城下 賢一

講師 田邊 久美子

助教 竹林 裕美子

助手（嘱託職員） 加藤 巧馬

再雇用（平成 29 年 4 月 1 日付）

教授（嘱託） 島本 史夫

昇任（平成 29 年 4 月 1 日付）

教授 恩田 光子

教授 藤森 功

助教 菊地 崇

助教 田中 早織

助教 田中 智

助教 小池 敦資

助教 清水 佐紀

助教 平田 佳之

図書・情報課長 三角 智津

総務課係長 中角 有希

キャリアサポート課主任 三上 麻美

経理課主任 野村 彰吾

配置換（平成 29 年 2 月 1 日付）

齋藤 貴博 総務課課長補佐から学生課課長補佐

藤田 梨誇 学生課主任から総務課主任

配置換（平成 29 年 4 月 1 日付）

小谷川 洋子

総務課課長補佐から学生課課長補佐

川崎 香子 入試課係長から総務課係長

庄門 大樹 臨床教育・研究支援課事務職員から

入試課事務職員

大阪医科大学との人事交流

（平成 29 年 6 月 1 日付）

森迫 宏幸 大阪薬科大学学生課主任から

大阪医科大学学務部付主任へ異動

堀江 雅彦 大阪医科大学学務部付主任から

大阪薬科大学学生課主任へ異動

併任を解く（平成 29 年 3 月 31 日付）

図書館長 大野 行弘（教授）

併任（平成 29 年 4 月 1 日付）

教務部長 浦田 秀仁（教授）

学生部長 大桃 善朗（教授）

図書館長 春沢 信哉（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

天満 敬（教授）

大学院博士前期課程担当教員

菊地 崇（助教）

大学院博士前期課程担当教員

田中 早織（助教）

大学院博士前期課程担当教員

小池 敦資（助教）

大学院博士前期課程担当教員

清水 佐紀（助教）

大学院博士前期課程担当教員

平田 佳之（助教）

兼務（平成 29 年 4 月 1 日付）

広報室 松尾 真充（総務課長）

広報室 三角 智津（図書・情報課長）

広報室 清水 信行（図書・情報課係長）

広報室 福樹 敬二（入試課係長）

産学連携推進室

福永 治久（臨床教育・研究支援課長）

産学連携推進室

道本 哲哉（臨床教育・研究支援課主任）

I R 室 手島 尚（教務課長）

I R室 前野 真徳（教務課係長）
兼務（平成 29 年 6 月 19 日付）

生涯学習センター
福永 治久（臨床教育・研究支援課長）
生涯学習センター
塚田 ひろみ（臨床教育・研究支援課課長補佐）

委嘱を解く（平成 29 年 1 月 19 日付）
共同研究センター長 松村 靖夫（教授）
委嘱を解く（平成 29 年 3 月 31 日付）
防火・防災管理者 天野 富美夫（教授）
安全管理者 春沢 信哉（教授）

委嘱（平成 29 年 2 月 1 日付）
共同研究センター長 永井 純也（教授）
委嘱（平成 29 年 4 月 1 日付）
防火・防災管理者 辻坊 裕（教授・理事）
広報室長 辻坊 裕（教授・理事）
薬用植物園長 谷口 雅彦（教授）
アドミッション・オフィス長

楠瀬 健昭（教授）
産学連携推進室長 戸塚 裕一（教授）
I R室長 宮崎 誠（准教授）
安全管理者 大桃 善朗（教授）
安全衛生委員会委員 宇佐美 吉英（准教授）
校医及び産業医 柚木 孝仁（非常勤）
学生相談室顧問 米田 博（非常勤）
学生相談室相談員 小田 佳子（非常勤）
学生相談室相談員 西田 裕子（非常勤）
学生相談室相談員 若林 暁子（非常勤）

委嘱（平成 29 年 6 月 19 日付）
生涯学習センター長 永井 純也（教授）

休職（平成 29 年 2 月 6 日付）
講師 加藤 隆児

復職（平成 29 年 4 月 1 日付）
講師 加藤 隆児

招へい教授（平成 29 年 3 月 1 日付） 上里 新一
招へい教授（平成 29 年 4 月 1 日付） 田伏 克惇
野口 正弘
橋田 亨

招へい教授（平成 29 年 5 月 1 日付） 中張 隆司

客員研究員（平成 29 年 2 月 1 日付） 吉田 祥
客員研究員（平成 29 年 3 月 1 日付） 上里 新一
客員研究員（平成 29 年 3 月 14 日付）
五十君 静信
客員研究員（平成 29 年 4 月 1 日付）

藤田 芳一（名誉教授）
松島 哲久（名誉教授）
田伏 克惇
橋田 亨
柳原 五吉
客員研究員（平成 29 年 5 月 1 日付） 田和 正志
中張 隆司

■慶弔

叙勲

瑞宝小綬章（平成 29 年 4 月 29 日付）
稲森 善彦（名誉教授）

本学における 薬品反応事故について（お詫び）

学長 政田 幹夫

平成 29 年 6 月 9 日（金）15 時 5 分頃、本学 B 棟 5 階におきまして、薬品反応事故が発生いたしました（軽傷 1 名）。

皆様には、多大なるご心配とご迷惑をおかけ致しましたこと、深くお詫び申し上げます。

詳細な原因につきましては、事故調査委員会を設置し、鋭意調査を進めておりますが、今後は適切な対策を実施するとともに、教職員・学生への一層の注意喚起と安全管理を徹底してまいります所存です。

平成28年度公開授業研究会、FD講演会

FD委員長 辻坊 裕

大阪薬科大学では、平成19年度からFD委員会を設置し、教育活動の充実および学習環境の整備のために努力を続けております。FD委員会は、現在「授業に対するアンケート」「公開授業（ピア・レビュー）」「公開授業研究会」および「FD講演会」などの活動を行っております。今回、平成28年度の「公開授業研究会」および「FD講演会」について述べさせていただきます。

1 公開授業研究会

平成28年度の公開授業研究会は、平成29年2月22日にD棟303講義室で開催されました。今回の公開授業につきましては、衛生薬学実習（天野富美夫教授他）、化学・化学演習（箕浦克彦准教授）、漢方・生薬学実習（谷口雅彦教授他）、医療薬剤学1（中村敏明教授）、および薬理学実習（松村靖夫教授他）の担当教員にお願いしました。授業終了後、各系のFD委員により学生ならびに参観した教員によるアンケート調査を行いました。公開授業研究会では、各系のFD委員がまとめたアンケート結果を踏まえて、改善点などについて種々意見交換し、今後の授業のさらなる改善に向けて担当教員に努力していただいております。尚、参加者は、教員33名、学生17名でした。

2 FD講演会

平成28年度のFD講演会は、平成29年3月14日に大会議室で開催されました。今回は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室の中井俊樹教授をお招きして、「アクティブ・ラーニングの導入に向けて」をテーマにご講演いただきました。参加者（教員57名、事務職員4名）は、まずアクティブ・ラーニングを授業に取り入れる際の課題と改善策についてグループワークを行いました。次に、中井先生より多様なアクティブ・ラーニングの手法についての紹介があり、特に「発問」により学生の授業に対する意欲を喚起させることの大切さを認識することができました。講演終了後には、参加者との活発な質疑応答ならびに意見交換が行われ、アクティブ・ラーニングの導入に向けて、具体的なアドバイスをいただきました。今後、本学の授業にアクティブ・ラーニングが導入され、学生が主体的に学ぶ能力の育成に繋がることを期待しております。

◆教員・事務職員の資質向上のため、次の通りSD(スタッフ・ディベロップメント)研修を開催しました

人権研修

日時	平成29年2月28日（火）13:00～14:30
場所	大阪薬科大学 D302 講義室
対象	全職員
内容	「大学におけるハラスメントの発生防止について」
講師	御興 久美子（NPO法人アカデミックハラスメントをなくすネットワーク（NAAH）代表理事）

メンタルヘルスケア研修

日時	平成29年3月17日（金）15:00～16:00
場所	大阪薬科大学大会議室
対象	主として管理職（教授・課長以上）
内容	「職場のメンタルヘルス～ラインケアについて～」
講師	柚木 孝仁（校医・産業医）

職員研修に関する基本方針に係る研修

①学生の厚生補導

日時	平成29年1月18日（水） 14:00～16:00
場所	大阪薬科大学 C203 講義室
対象	全職員
内容	「臨床心理士が考える学生の厚生補導時の留意点」
講師	若林 暁子（学生相談室相談員）

②教育活動等におけるマネジメントに関わる専門的職員の育成

日時	平成29年3月7日（火） 9:00～11:30、13:30～16:00
場所	大阪薬科大学大会議室
対象	教員（講師以上）
内容	「教学マネジメント研修」
講師	外部

③大学が定める3つのポリシーに基づく各種取組に係る自己点検・評価と内部質保証

日時	平成29年3月23日（木）第1部 13:00～13:30、第2部 13:30～16:30
場所	第1部 大阪薬科大学 C202 講義室、第2部 大阪薬科大学大会議室
対象	全職員
内容	第1部 「3つのポリシーの本学取組状況について」 第2部 「3つのポリシー実践のための『問題解決力向上研修』」
講師	第1部 浦田 秀仁（教授）、第2部 外部

◆三野芳紀教授 退職記念講義を行いました

平成29年3月22日（水）15時より、C205講義室において、平成28年度末をもって退職された三野芳紀教授の退職記念講義を行いました。最後を飾る講義のテーマは、「67年間を振り返って」でした。

講義後には、昭和52年より約40年間に亘り本学の教育に寄与された三野芳紀教授の功績を称し、研究室の学生から花束の贈呈がありました。



◆退職記念パーティーを開催しました

平成29年3月22日（水）17時30分より、大学会館食堂において、平成28年度末をもって退職された三野芳紀教授、花山加代子教授（特任）、鈴木芳郎教授（特任）、出開豊子教授（特任）、吉岡興一准教授、高橋正好図書・

情報課長の退職記念パーティーを開催しました。

当日は、100余名の教職員が参加し、退職者の方々に對し、これまでの労をねぎらうと共に今後のご活躍とご健康を祈念しました。

◆平成28年度学位記授与式を 挙行了しました

平成29年3月11日（土）10時30分より、本学体育館において、平成28年度大阪薬科大学学位記授与式を執り行い、学部卒業生ならびに大学院修了生が新たな一歩を踏み出しました。



◆平成29年度入学式を挙行了しました

平成29年4月3日（月）10時30分より、本学体育館において、平成29年度大阪薬科大学入学式を執り行い、学部新入生ならびに大学院新入生が入学しました。保護者、来賓、本学関係者等の多くの人々が新しい門出を祝福しました。



◆平成29年度白衣授与式を開催しました

平成29年3月30日（木）午前10時より、本学講堂にて病院・薬局実務実習に赴く5年次生を対象に白衣授与式を開催しました。大学から授与された白衣を身につけ、学長、実務実習等専門委員会委員長及び実務実習実施部会責任者の式辞に耳を傾けていました。



◆平成28年度実務実習伝達・報告会を開催しました

平成29年3月30日（木）午後1時より、本学体育館にて平成28年度に実務実習を行った学生が、実習先で学んだ知識を学生に伝達する「実務実習伝達・報告会」を開催しました。今年度は、体育館で開催し、全員が発表を行いました。発表では、実務実習で培った知識だけではなく、心構えや実務実習前後の思いの変化などを熱心に伝えていました。

また、当日は遠方から多数の指導薬剤師の先生方にもご出席いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。



◆高槻市主催「けやきの森市民大学」へ講座提供しました

平成29年2月25日（土）、3月4日（土）、3月11日（土）の3日間、高槻市主催にて開催された「けやきの森市民大学」に対し、本学から「大阪薬科大学公開講座」

として講座提供しました。「くすりの上手な使い方を学ぶ」をテーマとした講義を中村敏明教授より行い、各回約40名の参加がありました。

◆本学の社会貢献活動 ― 市民講座委員会からの実施報告及び今後の開催案内 ―

実施報告

第43回市民講座を、以下の通り開催しました。

開催日	平成29年5月20日（土）13:00～16:10
テーマ	がんとともに生きる
演題・講師	①正しく知ろう、「がん」のこと ～いつでも、どこでも、誰にでも「がん」と向き合えるために～ 岡山大学病院 血液・腫瘍・呼吸器・アレルギー内科 助教 西森 久和 氏
	②がんになったら運動しよう！ ～がんになっても自分らしく輝いて生きるコツ～ 一般社団法人キャンサーフィットネス 代表理事 広瀬 真奈美 氏
会場	大阪薬科大学 C105 講義室



開催案内

大学コンソーシアム大阪主催の大阪中学生サマー・セミナーを、以下の通り開催します。

開催日	平成29年8月4日（金）9:00～12:30
講座名	薬剤師の仕事体験してみよう
講師	大阪薬科大学 三大学医工薬連環科学教育研究機構 准教授（特任） 銭田 晃一
	大阪薬科大学 臨床実践薬学研究室 教授 荒川 行生
	大阪薬科大学 製剤設計学研究室 教授 戸塚 裕一
	大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 教授 岩永 一範
	大阪薬科大学 臨床実践薬学教育研究室 教授（特任） 金 美恵子
	大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 内田 まやこ
会場	大阪薬科大学 D棟2階模擬調剤室等

高槻市社会貢献事業として、夏休み子ども大学を以下の通り開催します。

開催日	平成29年8月5日（土）9:00～12:00
講座名	薬剤師さんに変身！—こども薬剤師体験—
講師	大阪薬科大学 三大学医工薬連環科学教育研究機構 准教授（特任） 銭田 晃一
	大阪薬科大学 臨床実践薬学研究室 教授 荒川 行生
	大阪薬科大学 製剤設計学研究室 教授 戸塚 裕一
	大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 教授 岩永 一範
	大阪薬科大学 臨床実践薬学教育研究室 教授（特任） 金 美恵子
	大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 内田 まやこ
会場	大阪薬科大学 D棟2階模擬調剤室等

第44回市民講座を、以下の通り開催します。

開催日	平成29年9月16日（土）13:00～16:10
テーマ	認知症とくすり：創る側と使う側から
演題・講師	①演題未定 国際医療福祉大学医学部 神経内科 主任教授 村井 弘之 氏
	②演題未定 同志社大学 脳科学研究科・神経疾患研究センター 教授 杉本 八郎 氏
会場	大阪薬科大学 C105 講義室

◆第5回大阪薬科大学学術講演会 in 東京を開催しました

大阪薬科大学と大阪薬科大学同窓会の共催により、「第5回大阪薬科大学学術講演会 in 東京」を開催しました。東京近郊で活躍されている本学同窓生や本学関係者に多数ご参加いただき、大変活発で有意義な講演会となりました。また、講演後には、演者、座長、参加者を交えた懇親会を開催し、和やかな雰囲気の中、無事終了することができました。

開催日	平成29年2月18日(土) 14:00～17:00
場 所	第一ホテル東京
主 催	大阪薬科大学、大阪薬科大学同窓会
後 援	公益社団法人日本薬剤師会
内 容	特別講演(14:30～15:30) 「医薬連携に基づく薬学的知見の創出～薬物動態学の知識を生かした臨床研究～」 大阪薬科大学臨床薬学教育研究センター 教授 中村 任 氏 招待講演(15:30～16:30) 「化学熱傷の恐ろしさ～産業現場での労災死亡事例を中心に～」 一般社団法人大阪医科大学仁泉会 理事長 河野 公一 氏



◆職場体験学習の中学生を受け入れました

地域連携教育の一環として、高槻市立第六中学校から職場体験学習の生徒を受け入れました。平成29年3月8日(水)～3月10日(金)の3日間、2年生の男子生徒2名が、図書・情報課で図書館業務を体験しました。冬休み期間中で入館者や図書の貸し出しが少ない時期でしたが、終日笑顔で対応し、真面目に丁寧な仕事をして頂き、楽しく心とむ3日間となりました。生徒達にとって、この体験が心に残る人生経験となることを期待します。

◆鶴保庸介内閣府特命担当大臣(科学技術政策)が本学を訪問されました

平成29年1月18日(水)、鶴保庸介内閣府特命担当大臣が大阪薬科大学を訪問されました。当日は、ジャバラの里として知られる和歌山県北山村から村長代理も出席される中、学校法人大阪医科大学の植木實理事長、浜岡純治副理事長、大阪薬科大学の政田幹夫学長他関係者と歓談の後、「ジャバラに関する研究」を視察するため、生薬科学研究室を訪問され、同研究室の谷口雅彦教授及び村上能庸客員講師より、ジャバラに関する研究状況について説明がなされました。学生による鶴保庸介内閣府特命担当大臣への花束贈呈もあり、なごやかな視察となりました。



◆平成29年度 大阪薬科大学生涯学習開講プログラム

平成29年度 大阪薬科大学公開教育講座

第75回 平成29年5月27日(土) 14:00～17:35 終了しました

演 題:「心不全から心臓移植に至るまでの薬剤師の介入ポイント」

講演者: 国立循環器病研究センター病院 薬剤部 特任副薬剤部長 和田恭一 先生

演 題:「我が国における重症心不全治療、特に心臓移植と補助人工心臓の現状と今後の展望」

講演者: 国立循環器病研究センター病院 移植部門 移植医療部長 福嶋教偉 先生

第76回 平成29年7月22日(土) 14:00～17:35

演 題:「多職種協働による在宅支援～地域の中で薬剤師ができること・すべきこと～」

講演者: アイビー薬局取締役・副社長/長崎大学薬学部客員研究員・非常勤講師 手嶋 無限 先生

演 題:「プライマリ・ケアの現場で本当に必要な薬について」

講演者: 学校法人大阪医科薬科大学 地域総合医療科学寄附講座 特任教授
大阪医科大学附属病院 総合診療科 科長 鈴木 富雄 先生

第77回 平成29年11月18日(土) 14:00～17:35

演 題:「未定」

講演者: ファルメディコ株式会社 代表取締役社長
一般社団法人 日本在宅薬学会 理事長
医療法人嘉健会思温病院 院長 狭間 研至 先生

演 題:「未定」

講演者: 神戸大学 名誉教授 平井 みどり 先生

受講料	各回とも 3,000 円 (本学卒業生の受講料は、2,000 円)
単位等	日本薬剤師研修センター 2 単位 大阪府薬剤師会の「薬剤師生涯教育受講証」(ICカードでの受付) 大阪府病院薬剤師会の「薬剤師生涯研修受講証」
申 込	事前申込不要です。直接会場へお越しください。

平成29年度 大阪薬科大学薬剤師のためのフィジカルアセスメントセミナー

第1回 平成29年4月23日(日) 終了しました

第2回 平成29年5月21日(日) 終了しました

第3回 平成29年6月25日(日) 終了しました

第4回 平成29年9月17日(日) 応募受付中

開催時間	10:00～13:00
開催場所	大阪薬科大学 セミナー室D-3A
受講料	各回 2,000 円 (本学卒業生の受講料は、1,000 円)
定 員	10 名 (先着順)
単 位	日本薬剤師研修センター 1 単位
申 込	大阪薬科大学ホームページ「薬剤師のためのフィジカルアセスメントセミナー応募フォーム」よりお申し込みください。

平成 29 年度 大阪薬科大学サテライトセミナー

平成 26 年 6 月に施行された改正薬剤師法第 25 条の 2（情報の提供及び指導）の条文で示されますように、薬剤師は従来までの「情報の提供」に加えて、「薬学的知見に基づく指導」を行うことが求められています。この「薬学的知見に基づく指導」を実施するためには、医薬品添付文書はもちろん、最新の医学・薬学的情報を十分に把握し、理解しておくことが必要であります。

その一方で、医療に関係する学問分野が日進月歩であることから、学生時代に習った知識だけでは最新の医療

に関する内容を十分に理解することは不可能です。そこで、サテライトセミナーでは、積極的かつ継続的に新しい知識や技能などを習得し、医療現場で活用していくことを目的として、各回のテーマに沿った内容を基礎から応用にわたって学習する少人数演習形式のセミナーを開講します。薬剤師の先生方の日常業務に少しでも活かせる内容になるよう準備を進めたいと思いますので、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

第 1 回目 **平成 29 年 6 月 18 日 (日)** **終了しました**

研修内容：「医薬品情報活用術 1 ～ S G L T 2 阻害剤の特徴を薬学的視点から整理する～」

第 2 回目 **平成 29 年 8 月 6 日 (日)** **応募受付中**

研修内容：「医薬品情報活用術 2」（仮）

第 3 回目 **平成 29 年 10 月 22 日 (日)** **応募受付中**

研修内容：「臨床薬物動態」に関するテーマのサテライトセミナー（仮）

第 4 回目 **平成 29 年 11 月 26 日 (日)** **応募受付中**

研修内容：「臨床試験」に関するテーマのサテライトセミナー（仮）

第 5 回目 **平成 30 年 1 月 28 日 (日)** **応募受付中**

研修内容：薬局薬剤師向けのがん薬物療法セミナー（仮）

開催時間	10：00～14：30（途中休憩あり）
開催場所	大阪薬科大学サテライト研修室（三島センター薬局 3 階）
受講料	各回 3,000 円（昼食代込）
定員	約 20 名（先着順）
単位	日本薬剤師研修センター 2 単位（予定）
申込	大阪薬科大学ホームページ（ http://www.oups.ac.jp ）から申込用紙をダウンロードし、FAX いただくか、「サテライトセミナー応募フォーム」からお申し込みください。
FAX	072-690-1105

◆メディアへの掲載・放送等（平成 28 年 11 月～平成 29 年 3 月）

掲載・放送日	掲載・放送内容	掲載・放送媒体	取材対応者・出演者・掲載者
平成 28 年 11 月 4 日	日本薬局学会での発表内容（お薬手帳の活用による重複投与防止）について	ウェブサイト 「日経ドラッグインフォメーション」	庄司雅紀助手
平成 28 年 11 月 16 日 平成 28 年 11 月 23 日 平成 28 年 12 月 14 日	テレビ番組観覧	MBS「戦え！スポーツ内閣」	サッカー部・ ハンドボール部
平成 28 年 12 月 3 日	「都市河川・湖沼の抗生物質汚染の拡大と耐性菌の出現」について	ケーブルテレビ局ジェイコム八王子 「知の回廊」	東剛志助教
平成 29 年 2 月 10 日	赤ちゃんポストの設置の意義と課題について	日本経済新聞社「日本経済新聞」	阪本恭子准教授

※大阪薬科大学広報規程第 6 条により、報道機関による取材に応じた場合は、総務課へご連絡ください。

◆平成29年度前期行事予定

行事予定表は大阪薬科大学ホームページでもご覧になれます。

■HOME>キャンパスライフ>行事予定(学部・大学院) URL <http://www.oups.ac.jp/life/gyouji.html>

平成29年度 前期行事予定		
4月	3(月)	入学式(学部・大学院)
	4(火)	新入生学力テスト 病院就活方針説明会(6年次生)
	5(水)	新入生ガイダンス 学内合同セミナー(病院・薬局)
	6(木)	キャリアサポートガイダンス(5年次生) 校医講演・新入生健康診断・アドバイザー面談
	7(金)	前期授業開始(1～6年次生)
	11(火)	健康診断(2・3・4年次学生・職員【男子】)
	12(水)	健康診断(2・3・4年次学生・職員【女子】)
	13(木)	健康診断(5・6年次学生・大学院学生・職員【男子】) 前期実習開始(1～4年次生)
	14(金)	前期選択科目履修届提出締切(1～6年次生) 午後1時(教務課)
	18(火)	健康診断(5・6年次学生・大学院学生・職員【女子】)
5月	9(火)	創立記念日(休業)
	11(木)	午後：金曜日午後授業を振替実施
	12(金)	新入生歓迎会(五月祭)〔午後臨時休講〕
	26(金)	共用試験ガイダンス(4年次生)
6月	3(土)	学友会球技大会
7月	6(木)	前期実習終了(1～4年次生)
	10(月)	前期授業予備日
	11(火)	前期実習予備日(1～4年次生)
	13(木)	前期授業終了
	14(金)	前期授業予備日
	18(火)～21(金)	前期定期試験(6年次生)
	18(火)～27(木)	前期定期試験(1～4年次生)
	22(土)	前期定期試験(1～4・6年次生)予備日
	28(金)	前期定期試験(1～4年次生)予備日
	31(月)	前期定期試験(1～4, 6年次生)欠席届提出締切 午後1時(教務課)
8月	18(金)～24(木)	前期下位年次科目再試験(4年次生)
	19(土)	前期下位年次科目再試験(4年次生)予備日
	24(木)	前期再試験受験者発表(1～4, 6年次生)
	25(金)	前期下位年次科目再試験(4年次生)予備日 平成30年度大学院博士前期課程(薬科学専攻)一般入学試験
	1(火)～2(水)	C B T 体験テスト(薬学科4年次生)
9月	1(金)～7(木)	前期再試験(6年次生)
	1(金)～12(火)	前期再試験(1～4年次生)
	2(土)	前期再試験予備日(1～4, 6年次生)
	8(金)	平成30年度大学院博士前期課程(薬科学専攻)一般入学試験合格者発表 前期再試験予備日(6年次生)
	9(土)	前期再試験(1～4年次生)予備日
	13(水)	前期再試験(1～4年次生)予備日
	14(木)	後期授業開始(1～4年次生)
	28(木)	特別再試験受験者発表(6年次生)
後期行事予定		
10月	27(金)～29(日)	第52回大薬祭
12月	12(火)～13(水)	C B T 本試験
	23(土)	O S C E 本試験

5年次病院薬局実務実習時期

○3期受け入れ施設

3-I期 5月8日(月)～7月23日(日)

3-II期 9月4日(月)～11月19日(日)

○4期受け入れ施設

4-I期 4月10日(月)～7月2日(日)

4-II期 7月3日(月)～9月24日(日)

4-III期 9月25日(月)～12月10日(日)

薬用植物の紹介

ベニバナ (キク科)

Carthamus tinctorius Linné

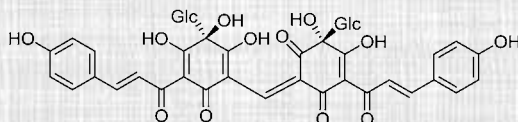
薬用植物園長 教授 谷口 雅彦

薬用植物園 技術職員 忍穂 陽介



ベニバナは、エジプト原産で飛鳥時代頃にシルクロードを通して高麗から日本に渡ってきたとされる。草丈が1 m前後の1年生草本であり、花期が6月から7月で、咲き始めは鮮黄色だが次第に紅色に変化する。鮮紅色の管状花を摘み取り乾燥させたものが生薬のコウカである。万葉集にも詠まれ、花を愛でるだけではなく染色材料としても利用していたことがうかがえる。ムラサキ、アカネ、アイなどととも植物染色材料の代表的なものである。現代では薬用や染色材料の他、リノール酸を多く含むサフラワー油（ベニバナ油）としても利用されている。国内の代表的な生産地は山形県であるが、世界的にはメキシコであり、比較的寒冷な土地から温暖な土地まで広く栽培することが可能である。

含有成分の主なものは、カルコン配



カーサミン

糖体のカーサミン（紅色色素）、サフロールイエロー（黄色色素）の他、脂肪油、リグナン、ステロールなどである。日本薬局方の確認試験では、ろ紙を用いた毛管分析により水溶性のサフロールイエローと難溶性のカーサミンを分離して確認している。コウカは血流の改善を目的とし、通導散、治頭瘡一方などの漢方処方に配合されている。

参考

薬草カラー図鑑 (主婦の友社)

第十七改正日本薬局方解説書（廣川書店）

生薬単 (NTS)

確認試験の結果
(サフロールイエロー
[淡黄色]・カーサミン
[淡紅色])



コウカ

編集 後記

広報委員長 教授
辻坊 裕

編集後記

学報75号を発行するにあたり、広報委員会のメンバーをはじめ、本学の教職員の皆様方に厚くお礼申し上げます。学報75号は、特集、定期連載、キャンパスニュース、教育・研究活動、学生の進路・就職状況、薬剤師国家試験結果、人事、ならびに薬用植物の紹介などから構成されています。これらのうち、特に平成28年度に設置されました「基礎薬学教育

研究センター」、平成29年度に外国語学習支援室として開室された「English Café」については、学生諸君に大いに活用していただきたいと思います。また、前号から始まりましたOB・OG紹介については、今後も継続していきたいと思いますので、社会で活躍されている卒業生をご紹介いただければ幸いです。

これからも親しみのある情報誌として学生、保護者の皆様方、教職員の皆様方に学報をお届けしたいと考えていますので、皆様方からのご意見・ご要望があれば遠慮なくお聞かせください。

▶▶▶ご意見・ご要望等連絡先メールアドレス [✉kouhou@gly.oups.ac.jp](mailto:kouhou@gly.oups.ac.jp) メールタイトルに「学報」と明記してください。